

【前半期に応募のなかった構図の例】

「島原半島の魅力～雲仙岳百景～フォトコンテスト」では、国立公園とジオパークの共通シンボルである“雲仙岳”の多様な表情にスポットを当て、(雲仙岳の写っていない写真も含め) 島原半島の魅力を感じる写真を募集しており、前半期に計 364 枚の素敵なお写真の応募がありましたが、雲仙岳を含む応募作品の構図を見渡しますと、平成新山や三岳(普賢岳、国見岳、妙見岳)を中心に据えた近景にやや偏りがちな傾向が見られます。

本コンテストの企画時に参考とした江戸時代の葛飾北斎作の「富嶽百景」では、水田に写った富士山や竹林越しの富士山、クモの巣越しの富士山、七つの橋の奥に小さく控える富士山など、無限とも思える自由な構図(特に遠景が多彩)で富士山を描き出し、当時の日本の風土の魅力を伝えています。雲仙岳についても同様のことが可能で、様々な構図で島原半島の魅力を伝えることができます。特に雲仙岳の場合は、20 を超える多くの山々を含むことから、富士山よりも多様な近景が撮影できるとともに、山々の組み合わせで東西南北に異なるシルエットを見せることから、多様な遠景の撮影が可能です。

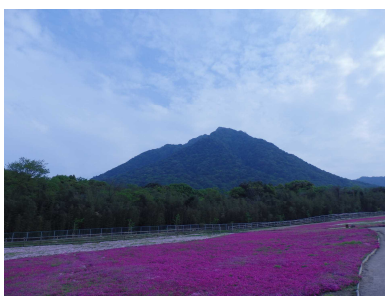
国立公園指定の5年後(1939年)に出版された「国立公園雲仙大観」(橋本喜造著)では、雲仙岳が登場する江戸時代以降の数々の文学作品や書物の紹介を通して、雲仙岳の多様な表情の魅力が力説された上で、近景12景+遠景12景の計24景が選定されています。現在のポスター等の観光PR写真の大半は限られた山々の近景ですが、当時選定された半数が東西南北からの遠景であった点は特筆に値します。当該書籍で紹介されている構図を含め、応募のまだない構図の例は以下の通りです。

●近景●

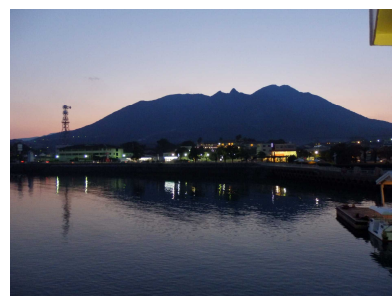
- ・島原市内の眉山、舞岳、稻生山、貝野岳等の個々の山の魅力をテーマとした構図
- ・南島原市内の野岳、岩床山、高岩山の個々の山の魅力をテーマとした構図
- ・雲仙市内の高岳、絹笠山、矢岳、猿葉山、鉢巻山、吾妻岳、九千部岳、鳥甲山、大峯の個々の山の魅力をテーマとした構図
- ・上記の山々を背景として、お城や神社、集落、ジオサイト、ジオフード等をメインで捉えた構図
- ・その他、島原湧水群や岩戸湧水、戸の隅滝、ニンジン畑、牛舎等を捉えた構図



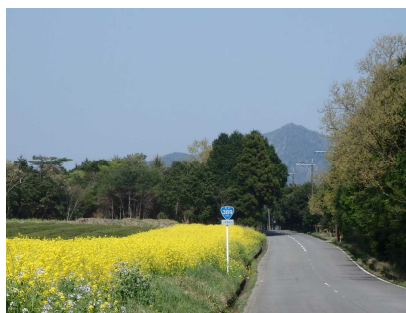
眉山 (不知火まつりの背景)



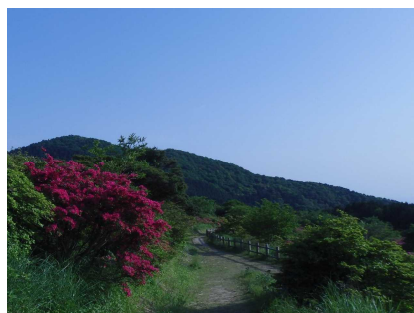
眉山 (芝桜公園の背景)



眉山 (島原外港の背景)



高岩山 (菜の花畑の背景)



高岩山 (宝原ツツジ群落の背景)



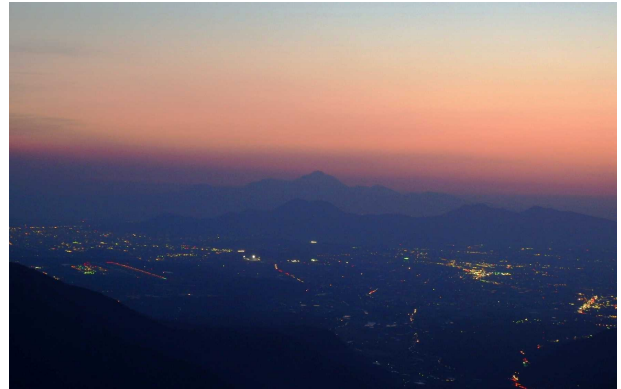
鉢巻山と吾妻岳

●遠景●

- ・長崎県：野母半島（茂木港周辺等）、大村湾周辺等からの雲仙岳
 - ・佐賀県：多良岳、竹崎、佐賀城周辺、佐賀空港等からの雲仙岳
 - ・福岡県：高良山（久留米市）、柳川、大牟田等からの雲仙岳
 - ・熊本県：荒尾、長洲、玉名、菊池、阿蘇（草千里等）、熊本市内各地（2件応募あり）、宇土半島（1件応募あり）、天草諸島、八代、水俣等からの雲仙岳
 - ・鹿児島県：長島、出水等からの雲仙岳
 - ・航空機・フェリー・高速船からの雲仙岳（1件応募あり）
- （その他、大分県の久住山や宮崎県・鹿児島県の霧島連山等からも撮影可能）



長島からの遠景



阿蘇（草千里）からの遠景



航空機からの遠景